

(株)白道路興農会 代表取締役社長

平田義視さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

2013年、綾部市白道路町の三つの農業組織を統一して設立した農業生産法人「株式会社白道路興農会」。設立時から代表取締役社長を務める平田義視さん(74)は、「小さな町に三つの組織は非効率だった。これを一つの法人にして、農地を守っていく」と決意した」と話す。

同町は、市中心部から北に約9キロに位置し、南北を低い山に挟まれた中山間地。約40軒の農地がある。75戸の農家が米作りに取り組んできたが、高齢化や後継者不足で農地が荒れていくことを心配する声が多くなってきた。一方で、同町には農業機械を持ち、受託作業を行う「興農会」の他、「グリー

ンサービス」と「高波カントリー」の2組織がそれぞれ約60〜70軒を引き受けるなど、三つの任意組織が運営されていた。

「町の農家が知恵と資金を出し合って、3組織を運営してきたのは素晴らしい。しかし、ヒト・モノ・カネが重複していた」と平田さんは話す。自身が2組織の代表を務めていたことから、同市やJ A京都にのくこの地域農業の担い手に向くJ A担当者(愛称T A

C II タック)に相談。一つの法人にすれば機能向上が期待できると、利用権設定で農地集積が可能になることなど、提案を受けた。

平田さんがリーダーとなり、3組織の役員と話し合いを重ね、同社の設立を成し遂げた。円滑な事業移管ができるよう、3組織の全役員が同社の役員に就くこととした。現在は水稲中心の経営で、13軒の農地を引き受ける他、水稲の基幹作業を22軒受託。同町の約8



▶ 地域農業の維持・発展に意欲を見せる平田さん

3組織 統合し 効率化

割を超える水田を担う。米は同社で乾燥・精米してJ Aなどに出荷。同町の住民に「白道路米」として販売し、好評を得ている。

平田さんは「当初は約1軒ほどだった経営面積が、4年間でこの規模になった。地域の皆さんに認められたと実感する反面、農業への関心が薄れてしまっているのが心配だ。次世代の人にも関心を持ってもらいたい。わが社の経営者になってほしい。そのためには、高収益が確保できる作物の導入が目の課題と考えている。この地域には元氣な農業法人が多いので、共に学び、協力して歩んでいきたい」と話す。

■法人所在地 綾部市白道路町 桜ヶ坪20番地。(電)0773(49)0596(平田さん宅)。

■法人概要 2013年6月設立。株主73人、取締役10人、監査1人。農繁期にパートタイマー5人。経営面積 113軒(特別栽培米12軒、もち米80軒など)、農作業受託22軒。トラクター3台、コンバイン3台、田植え機2台、バックホー1台、米乾燥機5台、色彩選別機1台、もみすり機1台。